

祝 令和4年度ながさき農林業大賞受賞者の紹介

令和4年11月12日（土）、長崎市内において、「令和4年度ながさき農林業大賞」の表彰式が行われました。この賞は、県内各地で地域の特性を活かしながら魅力ある農林業経営を展開している優れた農林業者を表彰するもので、県央振興局管内からは、4経営体2組織が受賞されました。

受賞された皆様おめでとうございます。
今後ますますのご活躍を祈念いたします。



長崎県知事賞

トップファーマー（花き部門）

吉塚 勇樹さん・沙矢佳さん（諫早市）

【経営概要】

1. カーネーション 60a
2. ガーベラ 35a
3. ばれいしょ 15a

【主な受賞理由】

- ・諫早市において施設花き95aとばれいしょ15aを経営する専業農家であり、カーネーション・ガーベラの複合経営規模としては県内トップクラスを誇っている。
- ・ヒートポンプ活用とEOD-heating管理を組み合わせることで、燃油使用量削減と収量向上に努め、併せて養液土耕栽培システムにより、灌水・施肥作業の省力化と、品種に合わせた栽培管理を実践。さらに、カーネーションでは、全国に先がけて環境制御システムを導入し、炭酸ガス施用機等環境制御システムを活用して、県下でもトップクラスである部会の平均単収を上回る11万本を実現。
- ・消費拡大に向けて、部会、市協議会、地域の花屋さんと連携し、男性向けのフラワーバレンタインや、保育園、小学校での卒園、卒業のタイミングに合わせてアレンジメント教室を開催するなど、地域を巻き込んだ花育活動にも積極的に実践。
- ・生産組織のリーダーや長崎県花き振興協議会青年部長などを歴任し、地域に先駆けて新技術を導入、地域の模範となり、農大生の受け入れ等若手育成にも尽力されるなど、本県花き及びの地域農業振興に大きく貢献。



トップファーマー（畜産部門）

西海産業 有限会社（西海市）
（代表取締役社長 山崎 光志さん）

【経営概要】

1. 母豚 796頭

【主な受賞理由】

- ・養豚産出額が県内第1位の西海市において、母豚796頭の大規模な養豚一貫経営。最新技術の導入や地域での定期的な情報交換等により生産性向上が図られ、母豚1頭当たり肉豚出荷頭数は28.3頭と全国でもトップレベル。
- ・昭和47年に農業法人の先駆けとして設立され、豚群管理能力検定システム等の活用による種豚を自家生産する閉鎖農場化と、食肉検査結果を基にした適切なワクチネーションによって、豚の改良推進と防疫強化を実現。
- ・豚舎は、空調がコンピューター制御されたウィンドレス豚舎の導入やLED照明への更新など先端技術と徹底した管理で高品質な豚肉生産を実施。雇用では、丁寧でこまやかな作業が向いている女性を積極的に採用し、地元の女性雇用の創出に貢献。また、堆肥については、地域内外へ良質な堆肥を流通。
- ・食肉については、こだわりの飼料選定による「西海豚」のブランドで大手スーパー「エレナ」において銘柄販売し、消費者との交流も実施。法人設立から50年を迎え、先進的な施設整備や定期的な情報収集により生産性が向上。



トップファーマー（特産部門）

大山 良貴さん・真美さん（東彼杵町）

【経営概要】

1. 茶 1,027a
2. 水稲 30a

【主な受賞理由】

- 東彼杵町で1,027aの茶栽培を行っている経営体。就農後、規模拡大に積極的に取り組み、就農時500aだった茶園は現在では1,027aまで拡大しており、製茶工場を所有する個人経営体としては、県内最大規模となった。
- 県内でもいち早く優良早生品種「さえみどり」、「つゆひかり」などを積極的に導入するとともに、標高差を利用して作業の分散を図り、適期摘採を実現。適期摘採と高い製茶技術により市場での評価も高く、優良品種導入のモデルとして地域での新品種の普及に貢献。
- 長年の技術の研鑽により、各種品評会、茶園共進会で好成績を収め、地域の茶生産者の技術向上を促す模範となる生産者。
- 平成30年に、地域の若手生産者とともに需要が高まっている碾茶生産に取り組む（株）FORTHEESを設立。海外輸出への取組を先導し、アメリカやオランダでのプロモーション活動を積極的に行った結果、（株）FORTHEESは県内最大の茶の輸出事業者となった。



いきいきファーム（産地集団部門）

長崎南部森林組合諫早支所（諫早市）
（支所長 鶴田 敏幸さん）

【組織の概要】

構成員 26人
産地規模 200ha

【主な受賞理由】

- 組合員数1,269名で構成される組織。県内でも他の林業事業体に先駆けて「森林施業プラン書」の活用に取り出し、受託面積の拡大と作業員の所得向上で成果を上げている。森林所有者と信頼関係を構築し、受託面積拡大と作業量確保を実現。
- 高性能林業機械導入や効率的作業システムを構築することで、省力化やコスト縮減が図られ、森林所有者の収益増加と作業員の所得向上に貢献。国内や輸出先のニーズに応じた良質丸太の有利販売や技術向上にも積極的に取り組んでいる。
- 担い手の確保・育成にも力を入れており、インターンシップ受け入れや作業員の処遇向上に取り組む。環境保全においても高い意識を持ち、再造林率は100%を誇り、森林組合発足当初から地域の山林会と協力し、経済林以外の森林づくりにも尽力し、林業の発展に貢献されている組織。



げんきビレッジ(農山村地域保全部門)

諫早市鳥獣処理加工販売組合（諫早市）
（組合長 永尾 洋一さん）

【組織の概要】
構成員 4人



【主な受賞理由】

- 平成28年に諫早市内の5つの猟友会で組織され、諫早市有害鳥獣防除対策協議会が、「捕獲個体の処分負担の軽減とジビエ利用による地域振興」を目的として、国の交付金を活用し整備した解体処理施設を運営しており、捕獲個体の加工販売のほか、捕獲者の技術力向上や大学生との交流活動、イベントへの参加によるジビエの普及啓発など、幅広い活動に取り組んでいる。
- 市内で捕獲されるイノシシの約1割となる300頭以上の個体を処理しており、地域資源の有効活用に貢献。
- 直売所やネットでの販売のほか、食肉以外でもペットフード原料など需要に応じた積極的な販路開拓、ロゴマークの作成や名称の商標登録などのブランド化の取組により、販売額が大幅に伸び、地域への経済効果とジビエの認知度向上にも寄与。
- 特筆すべき点として、長崎大学の学外授業「環境フィールドスクール」を毎年受け入れており、これまで約100名の受け入れ実績となっている。捕獲から解体、消費までの実習指導をしており、地域が抱える鳥獣被害とジビエの利活用による地域振興について伝えることで、狩猟免許取得やレシピ集の作成など、学生独自の取組へと発展。有害鳥獣の有効活用による地域振興の取組にとどまらず、野生鳥獣の捕獲文化の伝承にも貢献。

運営委員長賞

トップファーマー／果樹部門
野田 真吾さん・真奈美さん（大村市）

【経営概要】

1. 温州みかん 240a
2. 野菜 12.5a

【主な受賞理由】

- 平成27年に就農し、農地はすべて借地とするなど経営リスクを抑えた経営を実践し、かんきつ新規就農者としてモデル的な存在。
- 結果樹園の単収は部会平均の2.5倍の収穫量を得ており、園内道を整備することで農業機械の乗り入れを容易にする等作業性を改善。また、全面シートマルチを被覆して品質向上を実践。
- 就農を目指す研修生の受け入れにも積極的に取り組み、研修生の農地探しや農業機械の共同利用、管理の共同作業等を通じて技術や経営管理の伝授を効率よく実施し、みかん部会の中で若手生産者のリーダーとして地域の農業振興に貢献。



長崎・西彼地域農業振興協議会長賞

【施設野菜部門】

竹島 和之さん（長崎市／いちご）

【果樹部門】

山崎 繁好さん（長崎市／びわ・中晩相等）

【産地生産部門】

長崎西彼農業協同組合

ぶどう部会時津部会（時津町）

県央地域農業振興協議会長賞

【施設野菜部門】

沖田 盛廣さん・美智代さん（大村市／きゅうり等）

【畜産部門】

山口 壽博さん・裕紀さん（東彼杵町／肉用牛繁殖）

【産地集団部門】

長崎県央農業協同組合

東部ハウスゴーヤー部会（諫早市）